

第3回水稲病害虫発生予察結果

《稲の生育状況・管理方法》

5月上旬田植えの早生品種[コシヒカリ・キヌヒカリ等]

・生育状況と水管理

各地区とも生育はおおむね順調で、中干しをしており、茎の中では幼穂(穂のもとになる部位)が確認されました。幼穂がみられる時期からは再び水が必要ですので、中干しを終了し、水を入れるようにしましょう。このとき、水は徐々に入れていくようにし、その後は間断灌水を行ないましょう。

間断灌水とは・・・根の張りを良くするための水管理方法です。

- ① 水の深さが 2～3cm 程度になるまで水を入れ、水を止めます。⇒自然に減水
- ② 土面が出てきたら、再び田んぼに水を入れます。
- ③ ①～②の水管理を繰り返します。

・穂肥の施用時期

穂肥の施用時期は幼穂の長さが 1cm となる頃が目安です。今回の調査では、幼穂の長さは 0.1～0.4cm 程度でしたので、穂肥を散布するには、まだ早い状態と考えられます。

穂肥の施用時期が早いと、背丈が高くなり、稲が倒れやすくなりますので、適期に施用することが大切です。

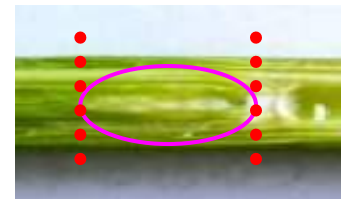
■幼穂の確認方法



茎のまん中をカッターで半分に割る。



半分に切った茎の断面。



幼穂の長さ
白い小さな穂の形をした部分が幼穂です。

茎の下側

5月下旬田植えの晩生品種[あいちのかおり SBL]

1株当たりの分けつ数が20本程度となりましたので、そろそろ中干しに入りましょう。

中干しは、①穂がつかない無駄な分けつを抑える効果

②土の中の有害なガスを抜き、根に酸素を与える効果

があるため、田んぼに軽くヒビが入る程度まで行ってください。

《各地区の主な病害虫発生状況について》

各地区とも防除が必要な病害虫は発生しておりませんでした。

《この時期の除草剤》

コナギ、オモダカ、ホタルイ等の発生が多い田んぼでは、晴天時にバサグラン粒剤の施用をおすすめします。

・バサグラン粒剤：10aあたり 3kg 足跡に水が残る状態で、晴天が3日以上続く日を狙って散布してください。

(但しヒエには効果がありませんので注意してください。)

※農薬使用の際には、使用方法・注意をお読みになってご使用ください。